

「介護セミナー」〈報告〉

～認知症をサポートする～

日 時：令和2年2月19日（水）13：00～14：00

14：00～14：30は学生の講義（介護実践演習）

会 場：香川大学幸町キャンパス 北4号館1階 415講義室

参加人数：149名（学生138名・教職員11名）

2月19日（水）香川大学幸町キャンパスにおいて、「介護セミナー」を開催しました。

高松市より、地域包括支援センター地域支援係 山崎憲明 氏、老人介護支援センターほのぼの 山本秀彦 氏をお招きし、ご講演をいただきました。

まず始めに、DVDを用いて認知症の方への望ましい対応・悪い対応についてご紹介いただき、認知症の主な症状についてやそれに至るまでの予防策、認知症の方への基本対応・基本姿勢についてお話しいただきました。また、セミナー参加者（学生）による「お昼ご飯を食べた」「食べてない」をめぐるロールプレイ等、非常に分かりやすくご講演をいただきました。

アンケートでは、ほとんどの参加者が「非常に参考になった」「参考になった」と回答しており、現在すでに認知症の方が身近にいる人も、まだ一度も関わったことがない人も、今回のセミナーで得た知識を、将来の自分、また近所や知り合いの人、何より家族のために生かしていきたいと感じたようです。

日々の忙しい生活の中ではなかなか難しいことかもしれないが、「認知症の人への対応の心得」「3つの「ない」」、急がせない、驚かせない、自尊心を傷つけないを基本姿勢として意識し、「さりげなく自然に」サポートすることが一番の支援であることを学びました。介護する側・される側の気持ちの負担を考え、少しでも軽減できるようなサポートについて考えさせられるセミナーとなりました。

以下、セミナーについての参加者からの感想（一部抜粋）

- やさしく対応することを心がけようと思いました。
- 認知症を支える方もきちんと理解して付き合わないといけないと感じた。
- 今日の認知症サポーター養成講座のおかげで接し方のポイントや話す時に気をつけることを学ぶことができた。
- 周りに頼っても良いということを心に留めておきたい。また、認知症に関する知識がまだまだ足りないと感じたので、近親者または我が身が患ったときに備えて、制度に関する知識を中心に深めていきたい。
- 今回の正しい対応を見て、周りの人のかかわり方1つで、認知症の方が安全で住みやすい環境になるのではないかと感じた。
- 私の祖父が認知症であることから、家族としてどのように支えることができるかを考えることができた。



▲講演時の様子